



©2005 石塚真一/小学館

第 100 号(平成 30 年1月 23 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 25 年 8 月に創刊した「島崎 三步の山岳通信」が、本号で 100 号となりました。

配信にご協力いただいている皆様、ご購入の皆様へ厚く御礼申し上げます。

本号では、山岳遭難発生状況(週報)と以下の内容をお送りいたします。

- ・平成 29 年中の山岳遭難発生状況(速報値)
- ・年末年始の山岳遭難発生状況
- ・第 100 号配信記念鼎談「～これまでの一步、これからの百歩～」

平成 29 年中の山岳遭難発生状況(平成 29 年1月1日～12 月 31 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 29 年	292	60	3	148	116	327	25
平成 28 年	272	43	6	150	104	303	15
前年同期比	20	17	-3	-2	12	24	10
内)BC	23	1	1	9	19	30	10

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北アルプス	槍穂高	61	20.9%	18	1	34	10	63
	後立山	59	20.2%	7	1	34	24	66
	その他	40	13.7%	3	1	24	13	41
	計	160	54.8%	28	3	92	47	170
中央アルプス	23	7.9%	7		10	7	24	
南アルプス	14	4.8%	5		6	3	14	
八ヶ岳連峰	34	11.6%	9		19	14	42	
その他の山岳	61	20.9%	11		21	45	77	
計	292		60	3	148	116	327	

態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	89	30.5%	27		66	1	94
転倒	68	23.3%			68		68
病気	26	8.9%	13			13	26
道迷い	55	18.8%				83	83
落石	6	2.1%			6		6
雪崩	6	2.1%	4		2		6
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷	22	7.5%	5		1	17	23
不明・他	20	6.8%	11	3	5	2	21
計	292		60	3	148	116	327

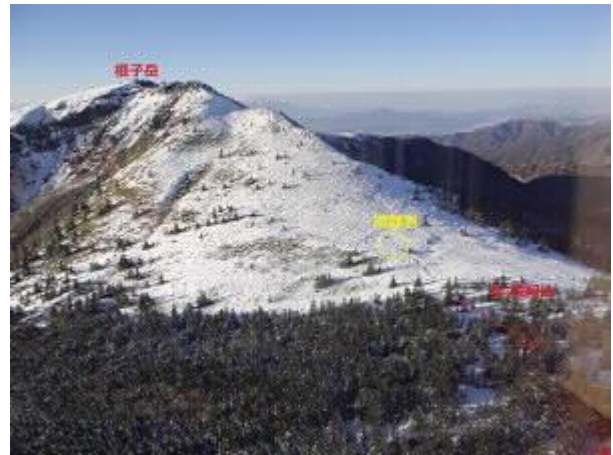
男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	1			3	4	54人 24.1%				1	1	15人 14.6%	5	69人 21.1%
20代	3		7	13	23				2	3	5		28	
30代	6		12	9	27		1		4	4	9		36	
40代	5		13	7	25	71人 31.7%	2		10	4	16	42人 40.8%	41	113人 34.6%
50代	9	2	23	12	46		2		17	7	26		72	
60代	16	1	16	15	48		1		19	7	27		75	
70以上	12		17	22	51	99人 44.2%	2		8	9	19	46人 44.7%	70	145人 44.3%
計	52	3	88	81	224		8	0	60	35	103		327	
比率	68.5%						31.5%							

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
12月22日	根子岳	56	男	疲労	無事救出	四阿山から根子岳へ縦走中、疲労と積雪のため行動不能となったもの

22日、四阿山から根子岳へ向かう鞍部付近で、男性Aさん56歳が積雪と疲労のため行動不能となる山岳遭難が発生し、県警へりで救助しました。

根子岳山頂付近の状況



12月23日	北アルプス 西穂高岳	59	女	滑落	負傷	独標付近を下山中、上高地側に滑落したもの
--------	---------------	----	---	----	----	----------------------

23日、北アルプス西穂高岳独標付近で、女性Aさん59歳が滑落して腰椎骨折等の重傷を負う山岳遭難が発生し、県警へりで救助しました。

西穂高岳における遭難現場の状況



12月27日	ハケ岳連峰 天狗岳	48	男	凍死症	死亡	ハケ岳連峰・東天狗岳付近で強風と降雪で行動不能
		48	女	凍死症	死亡	

27日、ハケ岳連峰東天狗岳で、男性Aさん48歳と女性Bさん48歳が強風と降雪のため行動不能となる山岳遭難が発生し、28日根石岳付近で発見となり、県警へりで救助しましたが、その後、2名とも死亡が確認されました。

12月31日 年末年始	北アルプス 白馬乗鞍岳	42	男	道迷い	無事救出	3名でバックカントリー中に道に迷い行動不能
		36	男	道迷い	無事救出	
		34	女	道迷い	無事救出	

31日、北安曇郡小谷村千国乙の白馬乗鞍岳で、バックカントリースキー等で入山した42歳と36歳の男性2名、34歳の女性1名が道に迷い行動不能となる山岳遭難が発生し、1日、県警へりで救助しました。

12月31日 年末年始	北アルプス 燕岳	35	男	凍死症	負傷	蝶ヶ岳から燕岳に向け稜線を縦走中、吹雪と疲労(凍傷)
31日、北アルプス燕岳の蛙岩付近で、男性Aさん35歳が疲労により行動不能となる山岳遭難が発生し、遭対協隊員により山小屋へ収容されていましたが、2日、県警へリで救助しました。						
1月1日 年末年始	八ヶ岳連峰 横岳	67	男	疲労	無事救出	石尊稜を登攀中、疲労のため行動が遅れたことから、仲間が救助要請したもの
		68	女	疲労	無事救出	
1日、八ヶ岳連峰石尊稜周辺で、男性Aさん67歳と女性Bさん68歳が行動不能となる山岳遭難が発生し、2日、茅野署員及び諏訪地区遭対協隊員が2名を発見して、付近の山小屋に収容しました。						

山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

12月4週は2件の遭難が発生しました。根子岳の事案は夏山と同じ感覚で入山したものの、予想以上の積雪に体力を奪われ、疲労により行動不能となったものです。

積雪量等の状況にもよりますが、一般的に冬山登山は夏山の3倍程度の行動時間がかかると言われています。当然、ルートが雪で覆われていれば雪をかき分けて進むだけの体力が必要になります。年末年始休暇を山で過ごそうと計画している皆さんは、日程、食料計画、装備や緊急時の対応等、計画に不備はないか今一度確認をお願いします。

年末年始の山岳遭難発生状況(平成 29 年 12 月 29 日～平成 30 年 1 月 3 日)

区 分		H30	前年比	H29	H28	H27	H26
発生件数		3	-6	9	4	6	8
遭 難 者 者 (人)	死 者	0	-3	3	1	1	1
	行方不明	0	±0				
	負 傷 者	1	-3	4	3	2	7
	無事救出	5	+3	2		3	2
	計	6	-3	9	4	6	10

年末年始の山岳遭難の概要は、上記の週報明細をご覧ください。

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝

「島崎三步の山岳通信」～これまでの一步、これからの百歩～

お客様と接する登山用品店舗スタッフの方やインターネットの登山情報サイトを利用される登山者の皆様などに向けて配信しております「島崎三步の山岳通信」が、このたび第 100 号の配信となりました！

ひとえに、配信にご協力いただいている登山用品店や登山情報サイト等の運営の皆様、そして毎週お読みいただき、ご活用いただいている皆様のおかげです。

本当にありがとうございます。

今回は第 100 号を記念して、新旧編集長、そして山岳救助隊から、山岳通信を始めた裏話、山岳通信への想い、そして皆様にお伝えしたいことをコラムにしました。ご一読いただければ嬉しく思います。

【山岳通信 これまでの歩み】

平成 25 年 8 月 2 日	第 1 号配信（登山用品店店舗向け配信開始）
平成 26 年 6 月 27 日	「信州 山のグレーディング」の公表に合わせて初の特別号を配信
平成 26 年 7 月 18 日	第 8 号配信（登山情報サイト向け配信開始）
平成 28 年 11 月 9 日	第 50 号配信
平成 30 年 1 月 23 日	第 100 号配信

【鼎談参加者】

元編集長：原一樹（一般社団法人長野県観光機構 常務理事 山岳通信の創刊者）

現編集長：野口昌克（長野県山岳遭難防止対策協会 事務局）

長野県警察山岳遭難救助隊：隊長 櫛引知弘
：副隊長 岡田嘉彦

一「島崎三步の山岳通信」を配信することになったきっかけは？

原：そもそも、平成 21 年頃からの山ブームに相まって、長野県内の山岳遭難が急増してきたことが背景にありました。平成 24 年に、タイトルになっている島崎三步が登場する漫画「岳」の存在を知り、山岳遭難の啓発の目玉として活躍してもらおう、と思い「岳」の作者と編集者さんをお願いしたところ、すぐにご快諾いただいた。

岡：平成 23 年には映画にもなりましたよね。

原：そう。だから岳は登山者に対してすごく発信力があると思った。もう一方で、登山者の行動を考えれば、まず「山に登りたい」と思ったら雑誌を見るとかするけど、絶対に「登山用品店」に行って道具を買う。その時に、店員さんに安全登山のための的確なアドバイスをしてもらえれば、登山者の遭難は減ると考えた。

野：登山用品店への発信と、岳のイラストと名前を使った「山岳通信」は、本当にうまい仕組みですよね。イベントなどに出かけてブースなどで啓発していると、一般の方から「毎週楽しみに見えています！」というお声をいただきます。本当に嬉しいですね。

原：登山は楽しいものだけど、その一方で文字通り一瞬が命取りにもなる。どうしたら、山岳遭難の現場で起こっていることを生々しく、リスクをリアルに伝えられるのか。それを考え抜いた先に、「岳」や登山用品店の皆さんの本当にありがたい協力をいただいたので、この仕組みが成り立ったんです。

第 1 号(平成 25 年 8 月 2 日)

店舗スタッフと山岳遭難現場をつなぐ

特別号

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信はお客様と接する登山用品店舗スタッフの方に、長野県の山岳地帯で発生した遭難の代表的な事例を随時お伝えし、「安全登山のアドバイス」のきっかけをさせていただくため、発行しています

7月 15日～7月 21日 掲載

ケース 1

7月 16日 北アルプス奥穂高 3 峰 女性 遭難・負傷

2人パーティーで八方尾根（駒宮沢付近）を登山中、雪渓上で足を滑らせて滑落し負傷した。

※今回は登山中に怪我が多いため、滑落・転倒への予防が重要です。

ケース 2

7月 18日 八ヶ岳赤穂山 60歳 男性 遭難・死亡

単独で美濃戸口から入山し、赤岳頂上付近の小小屋を目指し登っていたところ、何らかの原因で滑落し死亡した。至日、通りかかった登山者が岩場で横たっている遭難者を発見し、警察に通報した。

※60歳代の登山者は体力の低下（約 20% 程度）です。準備は万全に。

ケース 3

7月 21日 北アルプス奥穂高 60歳 女性 転倒・負傷

横通岳から常念小屋に向けて下山中、バランスを崩し転倒し足場として設置されていた鉄杭に足が当たり、約 5cm 切ったもの。自力で小屋までたどり着いたが、それ以上の歩行は困難であった。

※山岳遭難の多くは下山中に発生しています。最後まで慎重に下り。

※本通信に関する質問・意見は konoval@prefagoo.jp までお寄せください。
＝発行：お新刊社 読者様よりご意見をお寄せ＝

山岳通信第 1 号（創刊号）
3 件の遭難事例を掲載。

一山岳通信を始めて、山岳遭難や登山者の反応に変化はありましたか？

岡：残念ながら件数そのものとしてはなかなか減っていません。しかし、昨年長野県で発生した遭難は「滑落」で死亡する人は減りました。遭難防止対策には即効性はありませんが、山岳通信でも繰り返し「ヘルメット」の重要性を言ってきたことが、北アルプスでヘルメット着用が定着してきた要因の一つではないかと思います。

榎：これまで現場でも「もしヘルメットを被っていれば・・・」という遭難もありました。様々な手段で啓発していますが、登山用品店や登山情報サイトを介して、登山者の皆さんに具体的にリスクと対策を周知していることは、意味があると思いますね。

野：登山情報サイトなどからは、メルマガやフェイスブックなどの SNS にも転載してもらっています。中にはなんと 1000 近くの「いいね！」がつく配信もあつたりします。我々単体のウェブよりもたくさん波及的な効果があると思います。

岡：これからも、実際の登山者の役に立つ安全情報を、三步の山岳通信でもっともっと広く発信してもらいたいです。そのために、(山岳通信のもとになっている) 県警で発表している週報も、現場写真をたくさん載せることにより、わかりやすいように工夫を重ねています。

原：30 号くらいまでは週報をもとに自分で文章を考えていたんだよね。その作業も実は辛かった。いまはいくつかの情報を組み合わせて、山岳通信を作るワザを開発したけどね。

一山岳通信が 100 号となりましたが、さらに今後に向けた取組や皆様にお伝えしたいことは？

榎：県警としては、一般の登山者の皆さんにも遭難現場の実態を知っていただきたいと考えています。そこでこの 1 月から、本当の救助活動の様子を動画にして、YouTube で配信します。実際の救助の様子、そして遭難が発生すれば隊員も危険を冒して活動していること、見てもらえればきっとわかると思います。

野：私は山岳通信にもそのような情報を載せて、もっと発信していきますね。

原：私が最初に上高地・横尾で情報提供活動をしている際に、遭難箇所を大きな地図看板に貼り出してみました。それを見た多くの登山者が言った一言が「やべっ！」。私は「登山にはやばいことがある、ということを知らないキミたちが一番やばい」と思ったのが、これを始めた最初の気持ち。山は素晴らしい、けれどその半面で「やばい」こともあるんだよということを、山岳通信など身近なものから知ってほしいと思います。

榎：山岳遭難のリアルな状況をわかってもらうのが、この「山岳通信」の一つの目的です。山の魅力、楽しさに加えて「どんな遭難が起きているのか、どんなリスクがあるのか」という視点で活用してほしいですね。リスクを全く知らないのと、頭の片隅にあるのでは全然違います。もっともっと活用してくれることをおすすめしたいですね。

岡：全国ではまだまだ多くの山岳遭難が発生しています。いつか、遭難で悲しむ人が減っていくように、山岳県である長野県が遭難防止対策における全国のリーディングケースとして引っ張っていきたいですね。

野：これからもより伝わる、役に立つ山岳通信を配信していきます。ご期待ください！



山岳通信を支えるメンバー